

わかりやすい郷土の歴史講座

平成30年7月7日

さんぽ会 安部

九州飛行機香椎工場

渡辺藤吉本店・渡辺鉄工所

社長渡邊福雄（とみお）氏生い立ち

- 一代で飛行機製作工場を築き
- 父は藤城善七、子供の時の名は藤城福雄。
- 九州鉄道株式会社に給仕として門司で働きます。
- 博多に行き、伯父の店「紙藤」金物店で丁稚から希望するが、伯父の副業である渡邊鉄工所で働く事になります。
- 「工業雑誌」に見所手紙を書き、それが雑誌に載り、石川島造船所の齋藤平太郎氏から採用したいと連絡がはいります。
- 東京に行き、齋藤氏は自宅の1室を与え食費も取らないで、工場と工手学校の世話をしました。
- 石川島造船所での仕事も昇進し、敷地内に設けられた陸軍砲弾工場の50人余の指揮を担当しました。

渡辺鉄工所

- 福岡では副業の渡辺鉄工所と本業の「紙藤」金物店が不振で苦しんでいました。
- 親戚が集まり、本店を渡邊愛次郎氏に任せ、彼の妹の「はる」と福雄と結婚させ、渡辺鉄工所の再建をするため、渡邊福雄と名乗り、負債を返すため働き始めました。
- 日露戦争が始まり、陸軍砲兵工廠から輜重(しちょう)車(馬一頭でひく木造の荷馬車)を急いで作るように注文がありました。
- 石川島造船所での陸軍納品の経験が役に立ち順調に発展しました。
- 戦争のたびに、好不景気を繰り返し、安定した仕事を求め専門業である兵器の生産を思い立ち、工作機械を導入して水雷の仕事を始めました。

渡辺鉄工所(2)

- 1886(明治19)年1月に水揚ポンプなどの製作し、**渡邊藤吉本店**の
付属工場として創業しました。
- 1921(大正10)年には**海軍佐世保鎮守府**の指定工場となり、魚雷発
射管、機関部の製作を開始する。
- 1930(昭和5)年に**航空機部**を設け、海軍飛行機機体の製作を開始。
- 1935(昭和10)年には**武器専門工場**となる**飛行機工場**を新設し、**飛
行機製造**を開始する。
- 会社は、**陸海軍別**に分離独立します。

九州飛行機

- 1937 (昭和12) 年に陸軍関係の「太刀洗製作所」新設する。
- 1943 (昭和18) 年には海軍関係の「九州飛行機株式会社」を新設し、渡辺鉄工所も「九州兵器株式会社」に社名を変更します。
- 兵器の主力は飛行機に移ると考え、準備として飛行機の車輪の試作を陸軍に預けます。
- 現在の自衛隊春日駐屯地になっている広い敷地を飛行機製作工場の準備に確保しました。
- 飛行機の製作を海軍に申請し、許可がおりました。
- 1944 (昭和19) に軍需省が設置され、福岡軍需管理部が発足するとその管理下に入りました。

九州軍需監理部

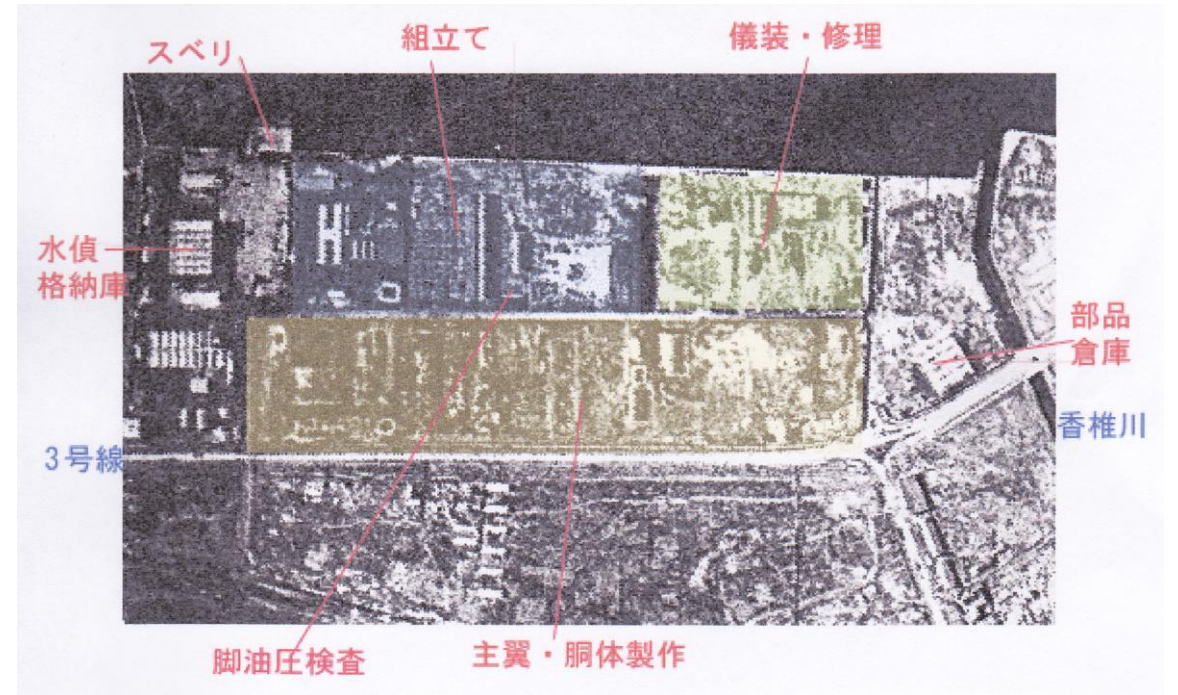
- **福岡県庁** (福岡市中央区天神1丁目) の正門左側の石柱に**九州軍需管理部**と墨痕あざやかに揮毫した看板が掲げられた。(昭和18年)
- 九州全域の軍需行政を執りしめる目的で、県庁舎・本館二階の北側の一室が**軍需監理部長室**に当てられた。
- つづいて、**軍需監理部長副官室、第一管理部長室、第二管理部長室、応接室、会議室**が連なり並んでいます。
- 当時の**県庁舎**は、洋館風の煉瓦造り、半地下一階、地上二階建て**本館**と、鉄筋コンクリート造り、半地下一階、地上四階建て**別館**とから成っている。
- 以上、その主要部分を**九州軍需監理部**によって占有されていた。

九州飛行機・香椎工場

- 戦争が飛行機の時代になり、飛行機工場はいくら増産をしても足りない状態が続き、九州飛行機も雑餉隈の本社だけでは足りなくなる。
- 航空機増産のため、国は巨額の臨時軍事費を投入して、香椎に対潜哨戒機製造工場を建設しました。その経営には民間企業の九州飛行機を当たらせた。
- 1942(昭和17)年、香椎に飛行機製造工場ができました。
- 「香椎工場配置図」を見ると、国道3号線香椎宮参道口の北側を流れる香椎川を北に、県警機動隊敷地南端の千早信号を南に、香椎第一中学校や香椎団地に延びる道路手前を西に、国道3号線を東にした帯状区域がかつての香椎工場用地でした。
- この工場は、軍需管理官が駐在し、工作兵30名、工場に派遣されている海軍指定軍需工場でした。

香椎工場(2)

- **工場内**は中央南北に六メートルのまっすぐな道路が通り、両側に鋸の歯を逆さまに立てたような棟が整然と並んでいて、組立課、胴体課、翼課、軽金課、機械課、重金課、部品課の**七工場**がありました。
- 現在の県警機動隊や隣接する千早病院は**寮**や**青年学校**、**講堂**などがあり、工場敷地の中で工場区と分かれていました。
- **工場の南端の海側**に本社で製作された**零式三座水上偵察機**の組立兼格納庫があり、その前がE13とQ1W1(東海)の試運転場二面になっていた。その先の海に向かってコンクリートの斜面(「スベリ」と呼ばれ、水上偵察機を海に下ろす為のもの)が延びていた。**(「故郷名島の歴史」)**



香椎工場配置図

香椎工場(3)

- 香椎工場での「東海」生産はいままで雑餉隈(本社)で一度組立てたものを分解して西戸崎まで陸送し、再び組立て試験飛行を行っていたものを、「香椎工場」で組立ててそのまま浮き船に乗せ起動船で西戸崎まで曳航して試験飛行を行い、生産から試験飛行まで合理化されていた。」と記載されている。(『春日市史』中巻)
- 1945(昭和20)年には空襲を避けるため、工場を疎開して生産を続けることになり、近隣に疎開しました。
- 米軍より偵察された写真が公開されていますが、九州飛行機や九州兵器の工場、敷地など爆撃を受けていません。これは戦後賠償として接收することを考えにいったものだと言われています。
- 海軍施設本部の設計にもとずき、多々良村松崎に覆土式半地下工場、五か所。香椎町香椎にトンネル式工場、12か所。和白村下和白に丘斜面トンネル式工場、2か所でした。

香椎工場(4)

- 昭和19年10月現在、飛行機の製作にたずさわった行員、従業員は社員2千人前後、徴用行員、**女子挺身隊**、勤労学徒で約1万2千人、合わせて約1万4千人が勤務していた。**(『火の雨が降ってくる』)**
- 勤労学徒は地元の学校、香椎中学校、香椎高等女学校をはじめ、福岡工業学校、鶴城高等女学校、福岡師範学校、福岡高等学校、等、福岡市、八女市、熊本、大分、宮崎からも来て、中学、女学生がラインを担当し製造しました。
- 香椎高校同窓会香綾会、香綾会コラムに『**中学生 女学生が飛行機を作った**』と当時の体験の思い出が掲載されています。

女子挺身隊

・第一次女子挺身隊

粕屋、宗像両郡の各町村から選抜された未婚女性が250人。

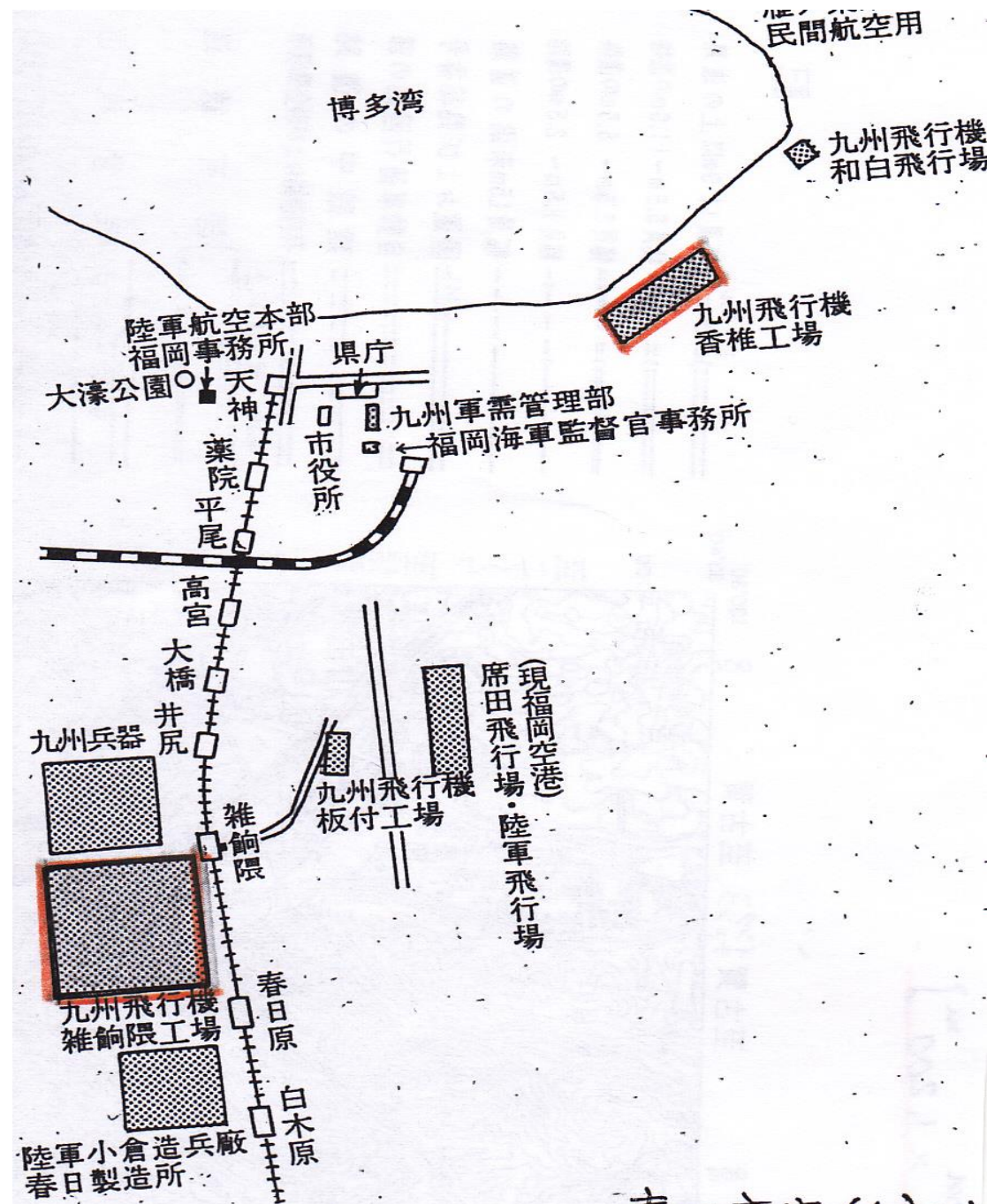
・第二次女子挺身隊

地元・香椎町の県立香椎高等女学校、福岡市内の私立川島裁縫女学校の新卒業生合計400人。

一定の訓練期間を経たのちそれぞれの現場へ配属された。

さらに3月19日に至って「中学生勤労働員要綱」が決定した。

九州軍需管理部位位置図



偵察機の開発

- 「覗き」は強いところを避け弱い所を突くという作戦執ると**大体勝利**します。
- 「覗き」を満足するために**偵察機**という機種が軍用として開発されました。
- 敵の**偵察機**による「覗き」を排除することが**戦闘機の開発理由**です。
- **偵察は「覗き」**です。敵を「覗き」ができると相手をより知ることができます。
- 偵察機は武装よりも逃げ足の速さを競うように発達していきました。速度が**必勝**の一つになっていきました。
- 大型艦船に積んでクレーンで海に下ろし、海から空に上ったり降りることができ**る水上飛行機は艦隊の目として重要な位置を占めるようになりました。**

零式三座水上偵察機

- 1940 (昭和15)年、**愛知航空機**によって開発された「**零式三座水上偵察機**」が正式採用され、量産されことになりました。
- 海軍は高速が期待できる低翼単葉の水上偵察機の試作を**川西航空機**と**愛知航空機**の二社に求めました。
- **略符号はE13A**。意味は「E」が偵察機で13番目に海軍に採用。最後の「A」は愛知航空機を示す。複座とは座席が2つで二人乗りの飛行機で、三座は三人が乗ります。前が操縦士、中が航法と通信、後方は旋回銃座担当になっています。
- **総数で1,423機が生産**されたが、開発した愛知航空機は133機しか作っていませんでした。ほとんどが九州飛行機香椎工場で生産されました。

参考 軍用機の制式名称

機種記号

K: 練習機、

E: 水上偵察機、

Q: 哨戒機

設計会社記号

A: 愛知航空機

K: 川西航空機

W: 渡辺鉄工所

M: 三菱重工業

N: 中島飛行機

香椎工場の様子

- 対潜哨戒機「東海」や機上練習機「白菊」などの陸上機は完成すると筏に載せ、対岸にある西戸崎飛行場まで運び、試験飛行後、受領されて各航空隊に配置されました。
- 本社である九州飛行機雑餉隈工場から香椎工場の連絡は、人は鹿児島本線雑餉隈駅(現南福岡駅)から博多駅経由で香椎駅から徒歩または車で移動します。
- 「三座水偵」を経営面から見ると開発費用はなしで、機体の製造費用は納入した海軍から全額貰えるし、製造技術の社内蓄積もあるので損は少なく利益の方が多かった。ただ製造された「三座水偵」のほとんどを製造しても、名機を開発した愛知航空機の知名度が上がるばかりでした。

香椎工場の戦後状況

- 戦後直後、1945(昭和20)年、アメリカ軍が駐在を始めました。
- アメリカ兵が九州兵器600名、九州飛行機1,500名、造兵廠春日製造所2,500名と駐屯しました。
- **名島飛行場跡地**には駐留軍の**洗濯工場**が建ち、返還まで使用されました。
- 香椎工場は賠償指定工場となり、兵器製造機械の破壊を命じられ、他の機械は保全、管理が命じられました。
- 朝鮮戦争勃発のため、1950(昭和25)年に賠償解除になりました。
- 撤退後九州飛行機香椎工場は**香椎自動車工場**となり、バス、トラックのボディの製作を開始しました。『**香椎町誌**』に**香椎自動車工業株式会社**の掲載あり。

香椎駅発車時刻表

(昭和23.7.1)

<p>バス・トラック・ボデー製作 香椎自動車工業所 芳長 渡辺 福雄 電話七五番</p>	<p>酒類配給登録店 春海屋 電話四一番</p>
<p>銘酒白松醸造元 杉屋酒造場 電話四〇番</p>	<p>日用海産物商 加永産物登録店 港屋</p>

現在の状況

- 2014(平成26)年時点で、九州飛行機の母体となった**渡辺鉄工**は産業機械メーカーとして存続。
防衛省向けに魚雷関連機器の納入を継続しております。
- さらにその母体となった**渡辺藤吉本店**も**建設資材販売商社**として存続しており、両社の場所は異なるものの、いずれも福岡市博多区に本社を置いています。

以上おわります。ご静聴ありがとうございました

渡邊福雄氏は昭和13年12月から昭和16年11月まで**福岡商工会議所**の会頭となり、それ以後昭和35年まで福岡商工会議所の顧問として福岡の商工の発展にご尽力されたようです。

参考文献 『渡邊福雄傳』 狭間裕行 著

『火の雨が降ってくる』 太田耕造 著

『福岡の戦争遺跡を歩く』 川口勝彦・首藤卓茂 著